令和6年度町政懇談会議事録

- 1 日 時 令和6年10月17日(木) 10:00~11:52
- 2 場 所 福島県農業総合センター 1階大会議室(郡山市)
- 3 出席者 伊澤町長、平岩副町長、森副町長、舘下教育長、横山復興推進課長、朝田戸籍税務課長、中野農業振興課長、藤本建設課長、中里住民生活課長、相楽健康福祉課長、木幡教育総務課長兼生涯学習課長、高橋課長補佐、松原支援員(13人)

4 町民出席者 10人

5 町長あいさつ概要

今年度の町政懇談会は、双葉町の復興状況について、特定帰還居住区域復興再生計画と第2期帰還意向調査について、双葉町住宅再建支援事業について説明し、皆さまからのご質問やご意見に丁寧にお答えするとともに、その他のご意見、ご要望等についても意見交換させていただき、今後の町政運営にいかしてまいりたい。

○町内復興の取組について

1) 駅西地区生活拠点等の整備について

町民の皆さまの帰還や就業者、移住者向けの生活環境を整備していた駅西住宅は、今年5月に全86戸が完成し、現在74戸に入居されている。昨年2月に開所した双葉町診療所では、週3日を基本に内科の診療を行っており、臨時の休診等については、町公式ホームページにおいて随時発信するので確認いただきたい。

2) 駅東地区の整備について

駅東地区は商業を中心とした賑わいを形成するエリアとして整備を進めており、役場庁舎北側の隣接地に建設中の商業施設は、イオン東北株式会社の入居が決定し、令和7年度中のオープンを予定。スーパーマーケットがオープンすることで、町内における生活環境が大きく向上し、双葉町にお住まいの方、復興に携わっている方々の日常生活を支えるとともに、これから町内で居住を検討されている方々にとっても、重要な判断材料となることで、更なる帰還、移住定住を促進し、居住人口の増加に弾みがつくものと考えている。町体育館跡地に建設予定の商業施設(飲食店)の整備も進めており、入居する3軒の事業者も決定している。昼間から夜間の飲食まで、利用される方々が幅広く食を楽しめる施設となる予定。

3) アクティビティエリアの整備について

双葉町復興まちづくり計画(第三次)において、中野産業団地と復興祈念公園、中間貯蔵施設に挟まれた約15ヘクタールの農地を中心とした土地を、アクティビティエリアとして整備する方針を打ち出し、事業化の検討を進めてきた。住民意向調査や復興町民委員会において、かつて海浜公園で整備されていたキャンプ場やバーベキュー場の再整備を求める意見が多く寄せられていることから、アウトドアゾーンをはじめ、運動交流広場など

の配置を検討。また、民間活力を積極的に活用し、初期費用の抑制を図りながら段階的に整備を進めてまいりたいと考えている。

4) 次に特定復興再生拠点区域内の営農再開への取組について

除染後の農地保全管理については、本年度で終了。来年度からの営農再開を目標としているが、既に町内では営農再開に取り組んでいる個人の農業者の方や農業法人によって、今年は約4ヘクタールの農地でブロッコリーなどの栽培が始まっている。

また、農地の基盤整備やほ場整備事業の実施に向け、各地域における調整が進んでいると聞いており、地元のご意向を踏まえ、本格的な営農再開に向けて、担い手の確保とともに一体的に取り組んでいく。

5) 町内の防災対策について

昨年度から防災行政無線の運用を開始し、屋外スピーカーだけでなく、災害時の緊急情報や防災情報を確実に伝えるため、町内に居住されている方、事業者等に対し戸別受信機の貸し出しを行っている。本年7月には、双葉町消防団第二分団に消防ポンプ自動車を配備。旧車両と比べ資機材を豊富に積載できるようシャッタータイプにするとともに、900リットルの水を積載しており火災現場で消火栓に接続することなく、速やかな消火活動を開始することが出来るようになった。引き続き、第一分団にも配備を進めるとともに、今年度中に町内2ヶ所に備蓄倉庫を配置していく。

6) 町内の学校再開について

基本構想では、「英語教育と国際理解教育を基盤とするグローバルな人材育成」を“目指す学び”のひとつとして位置付けている。双葉町学校設置検討委員会では、先進地視察を行うなど、学校施設の構成や配置計画について議論が交わされており、町内での学校再開に向けて、検討を進めていく。

6 説明

(1) 双葉町の復興状況について	(横山復興推進課長)
(2) 特定帰還居住区域復興再生計画について	(中里住民生活課長)
(3) 第2期帰還意向調査について	(中里住民生活課長)
(4) 双葉町住宅再建支援事業について	(中里住民生活課長)

7 懇談概要

(長塚二 男性)

越田踏切を閉鎖する話になっているようだが、最初は杉下踏切を閉鎖すると聞いていたが、それが急に越田踏切になった経緯を説明願いたい。また、その経緯の中でどのような話し合いが、我々住民にはどのようなお知らせをして、住民の意見をどこまで吸い上げたのか、そこまでお聞きしたい。

(藤本建設課長)

基本的にJRの方からは双葉町の四つの踏切すべてを廃止してほしいと打診がきたが、これは

まかりならないということで、最低でも一つということにおさまったが、その時に県のシンボル軸の整備が計画されており、それであれば杉下踏切がちょうど真下になるので、そちらを廃止と、双葉町とJRで取り決めをした。

当時は、双葉町の計画が本決まりではなく、前提としてシンボル軸があったので杉下踏切を廃止するというので、長塚一、長塚二の行政区長の下承を得て、まず廃止という協定をJRと結んだ。

近年になり駅西地区の復興が始まり、東地区の商業施設との行き来をするために、まず南側の深谷こ線橋が災害で落ちたことにより廃止が決まり、杉下踏切を継続して残す方向に町としても舵を切るようになった。JRの方では廃止が決まっているので、それを撤回することは出来なくなり、それであれば、100メートルくらいの距離にある越田踏切を廃止し、杉下踏切を存続できないかとJRと協議し、改めて両行政区長の下承を得て、前回の杉下踏切の廃止を撤回して越田踏切を廃止という方向に町として舵取りをした。

長塚一、長塚二の行政区長の下承を得る前提として全行政区長にお話をしてほしいということと全区長に話をし、下承という形ではなく、その事実を知っていただいたという形になった。その時点で反対者としては1人いたが、こちらの何度かの説明で納得して頂いた形である。

長塚一と長塚二の方についても、私と町長とで皆様の行政区の総会で説明をした。

(長塚二 男性)

踏切を閉鎖するという事は我々にとって大変なことだと思う。利用者への説明会も何もなく、長塚一、長塚二の区長だけの下承でいいのか、何事も住民の意見を聞かなければいけないと思うが、それも聞かないで区長の意見だけ聞いて、誰か1人反対し、その人も話し合いを重ねるごとに下承してもらったとのことだが、実際の住民は下承していない。それで区長の下承をもらって住民は了解していると思っているのか。

(藤本建設課長)

基本的にJRの踏切の廃止というのは、住民の全ての方の賛成を得なければならないということではない。

(長塚二 男性)

そこまでいなくても、あの踏切を利用するのは長塚の住民だけではなく、羽鳥、寺沢、両竹の人もみんな利用している。それを何も説明が無く、行政区長だけの了解で了解をもらったと解釈するのはおかしいではないか。

(伊澤町長)

先ほど建設課長の方から説明をしたが、まず基本的にJRの方では踏切に関しては、ほぼ全部閉鎖という考えであった。その中でなんとか交渉した結果、杉下踏切ということになった。住民の生活の利便性、羽鳥であったり寺松の人であったり、東側は両竹の人の交通に関して、非常に不便だというのは我々も認識している。

本来であれば越田の踏切も残すことができれば良かったが、この双葉町の今の復興状況を考えた時に、駅を中心とした西側、東側地区や、今戻ってきている住民の状況を総合的に判断して、杉下踏切を残してもらうという経緯になったと考えている。

ただ、越田の踏切に関しては当然、生活をしてきた方にとっては元々あったものが無くなるということについては、ご不便をかけるということと、皆さんにしっかりと説明がなされていなかったという話があり、そこに関しましては我々としても申し訳ないと思っている。

今回どうしても時期的なものがあり、両行政区長だけではなくて役員にもお話をさせていただいたということは報告として上がっている。本来であれば住民の皆さんにしっかりと住民説明会

をしてご了解をいただかなければならない案件だったと思っている。このことに関しては当方のしっかりとした対応が出来ていなかった。

ただ、先ほど申し上げましたとおり、町の今の状況を考える中で、どうしても越田と杉下ということになると、今の復興状況を考え杉下の方を残さざるを得なかったとうことは、事後報告となってしまうが町としての判断である。

(長塚二 男性)

私が一番納得できないのは、説明会も何もしないで、今年の大字会の時に、課長の方から説明があって、その話を聞いた。それまで何年、話をしたか分からないが、我々の意見を一度も聞かないでそういう風に踏み切ったということは、到底許せることではないと思う。

例えば、杉下踏切を残したいということになれば、長塚だって中田だって鴻草だって踏切があるが、なぜ越田なのか、我々、昔から生活しているけれども越田の踏切と例えば中田の踏切を比較した場合、どちらが、往来が多いかと言ったら圧倒的に越田の方が多い。そういうことも考えないで、越田にしたということは、ただ近いからということだからなのか。近くても我々がまわり道しなければならなくなる。

今まで県道に面したいところに住んでいたのが、袋小路になってしまう。この前の大字会の時に課長に、土地の価値が下がるのではないかと質問したら、不動産鑑定士に聞いたらそういうことはないとのこと、それなら逆にその不動産鑑定士の名前を教えてくださいと言った。袋小路と県道に面した土地の価値が一緒というそんな話があるのか、今回はその価値の問題を話しているのではないが、なぜ住民に話がなくてそこまで話が進んでしまったのか、という怒りである。

(伊澤町長)

先ほども申し上げたとおり、住民の皆さんにしっかりと説明をしてご理解をいただくという手続きに関しましては、こちらの落ち度だと思っているし、その部分では大変申し訳なく思っている。

ただ、四つの踏切に関して、J Rの意向として当初は全部廃止ということであった。その中でなんとかお願いしたいと言うことで、県の方にもお願いし、いろいろと要望して一つだけ残すという話になり、そのような判断になったと事後報告となってしまうが、決定に至ったということになる。

(長塚二 男性)

基本的なことに戻るが、なぜ町内の踏切全部をJ Rでは閉鎖と言ってきたのか。そんな話が世の中にあるはずがない。四つ全て閉鎖なんて話があるのか。

(藤本建設課長)

帰還困難区域だった時点で、国からJ Rの踏切を減らささいと言う指導が出たタイミングだったことから、双葉町に白羽の矢を立ててきたと思われる。

J Rから、双葉町が帰還困難区域でまだ電車も通過していない状況だったために四つの踏切を廃止してはどうかと打診があった。

(森副町長)

補足をさせていただきたい。昨今の流れとしまして、踏切での事故が多発しているということがございまして、国の指導としても踏切をなくすという方向に動いている。これは全国的な流れで、その旨でJ Rが双葉町の方に踏切を全部廃止にしたいという意向があったと聞いている。町としても先ほど町長が話したが、全部を廃止するのは住民の方の利便性等、特に跨線橋も無くなったということで、利便性が伴わないということでなんとか一つ残したという経過があった。その中でどれを選択したかということがあるという流れになっている。

(長塚二 男性)

常識では考えられない。町の中に踏切が四つあってそれを全部廃止しろというのは、いくら踏切廃止の議論が高まっているとはいえ、そんな話は最初からないような気がするけど、それをここで言ってもしょうがない。

私は踏切一つ廃止するのが杉下踏切で上に高架橋が出来たからだと思っていたが、違う事情があったことが分からなかった。住民説明も無く、越田踏切を閉鎖するという話になったことは許される話ではない。いつまでやっても仕方がない、他の方の質問もあるので私の質問はこれで終わりとする。

(羽鳥 男性)

踏切は杉下だけになってしまったが、これからの双葉町の東部と西部のバランスのとれた発展のためには、真ん中に鉄道があるということで、踏切というのは重要なものである。

今回、中学校敷地に新しい学校ができるが、東部地区から子どもたちなど利用する人たちはどのように西部に流れるのかの動線を考えたら、こ線橋も廃止、あとは柳通りの地下道と前田だけなのでかなり不便だということで、北と南に車も住民も通れて西部に便利なような整備の計画が必要。将来の計画として町として杉下踏切と決まったことから、今後の流れを考えた時、国やJRの動きもあると思うが考えてもらいたいと思う。

(伊澤町長)

踏切について、全国的に廃止に向かって動いているというのは紛れもない事実である。駅の南側にあったこ線橋も撤去し始めている。災害復旧工事で通れるようにしたけれどもそのあとの地震で橋脚そのものが危ない状態ということで、JRから撤去してほしいと要請がきた。JRで作ってJRで撤去は不思議だと思ったが、安全性からどうしても厳しいという話がJRからあったと聞いている。

今後、踏切について新しく作るというのは厳しいので、アンダーパス、例えば新山の屯所の所のように下をくぐるといったものの整備というのは今後、人口の変化、住民の帰還状況によっては検討しなければならないと考えている。戻ってきた住民の皆さんの利便性を考えたときにそういうものの対応は検討していかなければならないと思っている。

(長塚二 男性)

海のキャンプ場の整備について詳しく聞きたい。郡山海水浴場に入れるようにする構想なのか、今現在、構想としてはどのようなものを考えているのか

(伊澤町長)

詳しくは復興推進課長に説明させますが、海に関しては、双葉の海は快水浴場百選に選ばれた福島県内唯一の水浴場という部分で町民の皆さんの思いが強いというのは、私自身も感じており将来的にあの海を使えるようにしていきたいとは思っている。

ただ、中間貯蔵施設のエリアに入ってしまった。それが今後どのようにそこを使えるよう国との交渉は継続的にやっていく考えである。

(横山復興推進課長)

アクティビティエリアに設置する主なものはまだ検討しているところで、整備するにあたって費用がかなり膨らんでいるので、段階的な整備を進めていくところである。そこで住民の方からキャンプ場、バーベキュー場がほしいとの要望があったので、海水浴場を再開し、海と連携した仕上がりを目指した整備をしていく流れで考えている。

また、民間に入ってもらえるような土地を用意して、そこに例えばアウトドアのメーカーなどに入ってもらいショップとキャンプ場をテーマにしたゾーンが出来ればと思う。今後民間事業者

とのヒアリングを重ねながら進めていきたいと考えている。

(羽鳥 男性)

双葉町住宅再建支援金について、5年間継続して定住が条件とあるが、実際に作ってから何らかの形で定住できなくなった、あるいは5年経たないうちに死亡した場合、補助金の返還になるのか。

(中里住民生活課長)

例えば、病気で住み続けられなくなったなど様々な事情があると思っている。まず、5年間という基準を設定しつつも、皆さんの事情を細かくお聞きし、個別事情に基づいて町として対応していきたいと考えている。

(羽鳥 男性)

事前に9つの質問を渡しているが、簡単に回答していただければと思う。

①第2期復興・創生期間が令和3年度から令和7年度までだが、それ以降、第3期はあるのかあと、営農については第2期と同様の支援策があるのかお聞きしたい。第3期について閣議決定もされていないと思うが町としてどのように考えているのか。

(伊澤町長)

第2期復興・創生期間以降については、被災自治体、双葉地方町村会もそうですが復興がまだ道半ばということで、第2期復興・創生期間だけの予算付けだけで復興が出来ているかということではない。特に当町のように令和4年8月30日に避難指示解除ということで、まだ2年なのでインフラも公共施設もできている状況ではないことも含め国には第3期復興・創生期間ということで要望をさせてもらっている。

具体的にどうなっているかについて、個人的な見解になるが、自民党の総裁候補者の討論会が福島であったときに現総理大臣の石破さんが双葉町に来られて、町内視察をしていただいた。

その時に、先行的に避難指示を解除したところと双葉町の状況は違うので、一括りで復興創生について終了という考え方はおかしい。後発で避難指示を解除したところ、富岡・大熊・双葉・浪江は避難指示が解除されまだインフラの整備は仕上がっている状況ではなく特にハードの部分はまだまだかかると我々は思っている。被災自治体全域ということではなく、復興のフェイズが、先行的に避難指示解除したところは10年以上経っている、概ねハードの部分の整備が完了していると我々の感覚としてはある。

一方、双葉町、大熊町のように避難指示解除が遅かったところはまだまだ復興できたといえる状況ではない。その部分にスポットを当てていろいろと財源の確保の要望をし、自民党の復興加速化本部、公明党の復興加速化本部に要望させてもらっている。自民党、公明党の復興加速化本部の皆さんには認識していただいていると感じている。

(羽鳥 男性)

農業に関する要綱など見るとすべて令和8年3月31日までとなっている。それも含め延長を国に働きかけてもらいたい。

②国の各種支援、医療費の無料化や税金の免除など措置があるが、期間は避難指示解除後10年間と聞いているが本当か、10年であれば避難指示解除区域と特定帰還居住区域とあり、解除されて2年の区域は、あと8年で支援が打ち切れ、解除されていない区域と同じ町民として不公平感があるので、措置が打ち切られたときに激変緩和措置など町から国に訴えかけていかなければならないと思う。

それから住民登録が国の措置がなくなる時点で帰還するか避難先に住所を移すかの分かれ道になると思うが、その詳しいところを聞きしたい。

(伊澤町長)

まず、国の措置、避難指示解除後10年、これは先行して避難指示を解除した広野町、川内村は解除後10年で色々な制度は終わっているのです。そのような話が出ていると思う。双葉町も特定復興再生拠点区域が解除されて10年後はおそらくそのようなになるだろう。

一方で、まだ避難指示が解除されていない地区については状況が違うと思う。避難指示解除後という判断をしているので、そういったことに関しては国にしっかりと要望していく。

住民登録は、いつまでも特例法で本人の意思があれば、双葉町に住んでいなくても住民票を双葉町に置くということは、法律ではなく特例で認めている状態なので将来的には必ず住民票の判断はくる。ただ、それがいつかは、国の方からもまだ具体的に明示もなく説明も受けていないが、突然明日からダメということにはならず、国でも何年か前に方針が示されると思う。それが、適切かどうかは我々も考えて対応していきたい。住民票に関しては当分の間、皆さんの意向で双葉町に置きたい方は置けるという判断をしてもらってもよいと思う。

(羽鳥 男性)

③農地に関する固定資産税だが、固定資産税はその土地の利益に応じた税ということで儲けが無いときは免除になると聞いているが、特に双葉町の場合は基盤整備とかほ場整備がまだ手つかずで、収益が見込めない状態で、地権者は年金生活者がほとんど、基盤整備などが終わった段階で課税するべきではなかったか、他の町村で農地に課税しているのは作付できる状態になったから課税している、宅地の場合はいつでもアパートを建てて営業できるが、農地の場合は基盤整備などしないと作付けできない状態、地震で農業設備も崩壊している。議会の承認をもらっているものでどうしようもないのか。

(朝田戸籍税務課長)

固定資産税は地方税法で所有していることで課税している、必ずしも土地からの収入があるから課税でなく所有していることで課税しているのでご理解いただきたい。

(羽鳥 男性)

特定復興再生拠点区域の農家の人から課税が早すぎるとの意見がだいぶあったので質問した。

④道路・河川等美化活動報奨金の取組の概要の(4)の一ヶ所とはどういうことか。

それから、上羽鳥は道路維持工事で防草シートは貼っているようだが、路肩から1メートルくらいしか貼っていない、官民境界まで貼れば管理するのも楽、法面についても防草シート貼れば後の管理もよいと思う。

(伊澤町長)

他の方の質問もあり、回答する時間が無くなるので質問も簡単をお願いしたい。

(藤本建設課長)

一ヶ所とはこちらの想定としては、半日くらいの作業範囲量という考え方をしている。届出を出すときに活動実施計画書を出すことになるが、それに何メートル刈るか等を書いてもらい、その時にヒアリングをして、慣れている方とそうでない方とは同じ時間で出来る範囲が違うことから一ヶ所が何メートルという決まりはない。

(羽鳥 男性)

⑤除草剤の配布について、大熊町では液剤と粒剤を選択できるが。

(中里住民生活課長)

質問というよりは提案という形で受け取らせていただく。せっかく作った制度ですので皆様に利用していただけるように、持ち帰り検討させていただきたい。

(羽鳥 男性)

⑥町政懇談会のあり方について、参加者が年々少なくなっている。一人か二人の会場もあると聞いたのでこの辺りで町政懇談会のあり方を検討するべきではないか。

(伊澤町長)

町政懇談会は県内外で11カ所やっているが、他の自治体は回数、場所等、相当減らしている。町民の皆様が多く避難されている所で取り組んできましたが、当初の状況からだいぶ様変わりしてきていると感じる。住民の皆様にはホームページや紙ベースで周知しているが、残念ながら年々参加者は減ってきているのが現状である。

それらを踏まえ町政懇談会の場所、回数など見直しをする時期に来ていると感じている。多くの皆さん来ていただけるとありがたいが、平日の昼間は皆さん都合があるということで、住民の方から提案があつて、土日なら来やすい、夕方だったら来られるという話があり対応させてもらったが、残念ながら実績としてはあまり変わりません。

そういうことも踏まえ今後、町政懇談会そのものを継続はしていかなければならないと思いつつも、今の回数でいいのか見直しをかける時期に来ていると思っている。

(上羽鳥 男性)

⑦職員の資質の向上について、復興は職員が担うと思う。国や県からきた職員とも交流があるが、中には毎週月曜日に休んでいる職員がいた。収支決算書も出来ない、規約改正のやり方が分からない、公務員として基本的なことを身につけていない職員がおり、支援に来ていただいた職員については、目的意識を持って双葉町の復興に取り組んでもらいたい。人事評価制度を活用して職員のやる気を、復興の担い手との意識を持って取り組んでほしい。これに回答は要りません。

⑧農地の除染については、環境省に聞いたが本格除染を実施する。除染後の農地の保全管理については町の考え方で決める。今後、上羽鳥沢入の一部の農地を除染するが、除染後の農地の保全管理について町はどのようにする考えか。

それから、双葉町の営農再開ビジョンが発表されたが、非常にいいことが書いてある。特に国県の助成事業の対象外について町独自の政策を検討すると唱っているが具体的にどのような支援を検討しているのか。

あと、現在町内6地区で農地の保全管理をしているが令和6年度で終わる。終了後は誰が管理するのか、ほ場整備までだが少しでも期間を開けると荒廃してしまう。浪江町では営農再開支援事業で草刈りなどしているという話は聞いている。

それから、連携協定締結後の動きについて、令和4年10月にトヨタ自動車とカーボンニュートラルに関する連携協定を締結していると思うが、締結後の動きが分かれば伺いたい。

(中野農業振興課長)

質問に対しトータル的に回答する。まず除染後の農地の保全管理については、そもそもの目的は除染した後の農地は営農再開をしていくのが目的で保全管理が目的ではない。そのため、町としては国の補助事業が満了する3年間、保全管理に取り組んでいる。その後、令和7年についてはどうするのか皆様ご不安があると思うが、土地については所有者自らが管理するというところというのは皆さんお分かりになっていると思う。ただ、現在避難中で避難先からは遠い、高齢であり担い手もないという課題も地域で把握し検討している。上羽鳥地区についても今年中に設計をして基盤整備に入れればと思っている。

下羽鳥、長塚地区については、県と一緒に促進計画を立てて、来年には法手続きに、再来年には工事の流れで考えている。

また、他の地域についても三字地区は農業法人等が入っており、管理耕作を経て基盤整備に入りたいと地区全体で取り組んでいると聞いている。また、中田、下長塚地区も基盤整備に入りた

いとこの意向を伺っている。そこについても農業法人の参入意向もあり、そことマッチングして行っていきたくと考えている。

来年度以降の保安全管理については、参入意向のある農業法人の方で、管理耕作をし、規模拡大し管理してもらうのが望ましいと思う。今後、町の方でも農地バンク等を利用し活動すると思うが、まずは管理耕作として参入する企業と、その地区でどのような農作物が出来るかなどやっていきたい。

また、全部農地が農業法人で借りられることもないので、そこは去年説明しているかと思うが、地区の皆さんと話し合いをして、地区の農業をこれからどうしていくのか一緒に考えて行ければと思っている。またその中で出てきた計画の中で、このような機械を入れたい、このようなことをやりたいなどの要望があれば、当然国、県の補助事業も使うことができる。町単独でも考えている。具体的な要望があれば、それを踏まえた補助事業を作り上げていきたいと思う。そこは今後の検討かと思う。

最後に連携協定の話ですが、舞台ファームと連携協定は現に生きている。舞台ファームとの参入については昨年、上羽鳥とマッチングをしたが、その際にこの規模では入りにくいとの意見があった。また、舞台ファームではパイプラインがマストということもあり、事業費が上がりほ場整備をした場合に個人負担が出るということで、なかなか皆様のご理解をいただけないところもあった。現在、浪江町に舞台ファームが入ると聞いている。そのあとの動きは無いが稲作という選択肢もあるが、地元の要望もあると思うので、相談しながら進めていければと思っている。

カーボンニュートラルについては、大熊町と浪江町でやっていると思うが、今後中身によっては進めていきたいと考えている。

(上羽鳥 男性)

⑨最後の一つだが、上羽鳥の仮置き場で分断されていて何をやっても地区でまとまりがない。仮置き場については3年でその後1年更新でやっていると思うが、地域としては迷惑施設なので町としてもある程度の期間を区切って解消していくべきだと環境省に言うべきである。

(建設課松原支援員)

解消すべき、期限を設けるべきではないかと、環境省としてもそう思っている。いつまでかという、まず仮置き場は町内に石熊と羽鳥に大きいものがあり、除染で出てきた土と家屋の解体で出てきた廃棄物をそこで分別している。仮置き場が町内にあるのは復興の妨げになると環境省も思っている。今、中間貯蔵施設の中に仮置き場の機能を移していくための工事を進めている。まず、大熊町の方で工事が進んでいて、中間貯蔵施設の中の仮置き場の造成が進みましましたので早ければ今年度から順次仮置き場の機能を中間貯蔵施設の中に移していきたいと思っている。

中間貯蔵施設の中の双葉町側についても、仮置き場の造成の作業を始めようと思っている。中間貯蔵施設の中の仮置き場が安定して運用できるようになり始めたら、羽鳥、石熊の仮置き場をいつ頃返せるか地権者や行政区、地域の方に説明できるようになると思っている。

今日時点ではいつまでに返せるかは言えない。繰り返しになるが中間貯蔵施設の中の仮置き場の整備を急いで進め、その運用を着実に進めていくことが仮置き場の早期の解消につながっていくと思っており、環境省でも遅いというお叱りはあると思うが、しっかりとやらせていただき避難指示解除のあとの営農再開の妨げにならないように仮置き場を返していきたい。

(羽鳥 男性)

学校再開の話があるが、学校には子供たちが通ってくれるような環境づくりをしなければならぬ。働く場が出来てインフラもできてきた。若い人たちに住んでもらうような整備を進めていかなければならないと思う。

移住者も77人と昨年より増え、町に戻る人も増えてきた。移住者でも特に若い子育て世帯、子供たちが増えればと思う。住宅再建支援金は地元の方が対象、移住してくる方にアパート、住宅を造成し住んでもらい人口も増え学校にも子供たちが多く通ってもらうように、特に住宅支援、定住促進支援についてはどのような考えか。

(伊澤町長)

住宅再建支援金については、先ほど説明したとおりである。双葉町に戻ってきて住宅を再建する補助だけで足りているとは思っていない。県にも支援策を要望しているので、実現すれば、町の単独にプラスアルファになると期待している。戻ってくる人、新たに住む人たちに対し双葉町ではアパートとか賃貸施設は全然足りていない。民間事業者にアパートを作してほしいと申し入れをしているが、建築単価の高騰でなかなかできない。アパートを作っても採算割れしてしまいとてもハードルが高い。国の補助があればよいが、それだと限られた施設になってしまう。広く色々な方に住んでもらう住宅を検討している。

健全経営のためには町も税収が無いと厳しい、所得がある方が入るような住宅というものが無い。そのような方を住民として迎えるには今の制度では非常に厳しい。再生賃貸住宅というと高所得者が対象ではない。元気に働いて納税する方を支援する制度というものは現状ない。町としてどうするか国と相談し帰還促進と矛盾していないかなどの相談をしながら、そのような建物を今後やっていかなければならない、国の支援が期待できないならば最終的には町単独でやらなければならない。町の財源を考えると厳しいものになるが、最終的な判断をしなければならぬ時期にそろそろ来るのだろう。

今、戻りたい人が戻れる環境を作らなければ人は戻ってきません。自立して自分で建てる人ばかりでは無く、建ててほしいという方も大勢いる。そのような方のニーズに合った住宅政策を今後、町として検討している所である。まだ公表できる状況ではないがある程度の突破口を見つけて、何とか不足している住宅関係を補助していければと思っている。

(羽鳥 男性)

道路・河川等美化活動報奨金について、半日程度で5,000円とあったが離れている人が行く場合、ガソリン代などをかけて行くが、そういう場合どうしていくのかなどは建設課に連絡すればいいのか。

(藤本建設課長)

双葉町に住んでいる人にやってもらう形で燃料代など補助するものなので、遠くから来られる方については、また違う新しい制度を来年度以降作りたいと思う。

(羽鳥 男性)

ボランティアでも町外から行きたいと思う人はいると思う。質問があったら電話でも答えて頂けるように取り組んでもらいたい。

(長塚二 男性)

町の真ん中のメイン通りは今後どのようにするのか、また、中野地区企業立地の資料について、いろいろな会社が載っているが、どのようなことをしている会社なのか分かるようなパンフレットはあるのか。

(伊澤町長)

旧国道は、拡幅や整備ができれば良いが、家屋が残っている所と残っていないところあり、事業として行くと格差が出てしまう。残っている人は上物と底地、更地にした人は底地だけの補償と格差が出て持ち主の間で不公平感が出てくると思うので、そこの踏み込みの部分は難しいと考えている。当初は拡幅して町の交通状況事情にしっかりと取り組めるような構想を持っていたが、

今の駅東と駅西の状況から駅を中心に広げていく構想で考えている。道路に関しては、今取り組もうとすると厳しいと感じている。歩道や歩行者が安全に通れるものなどは今後検討していかなければならないと思っている。中野地区の企業については復興推進課長に説明させる。

(横山復興推進課長)

企業の中身をまとめたものは無いが、以前、広報紙で企業紹介をやったことがある。今後、企業紹介という形でまとめたものを作成したいと考えている。

閉会 11時52分